

第20回 The 20th Annual Academic Conference of
the Japanese Telemedicine and Telecare Association

日本遠隔医療学会学術大会

JTTA 2016 in YONAGO

大会
テーマ

遠隔医療が創る、新たな医療

— 未来に向けた基盤を考える —

プログラム・抄録集

会期 2016年10月15日(土)・16日(日)

会場 米子コンベンションセンター

大会長 近藤 博史 鳥取大学医学部附属病院 医療情報部

副大会長 谷口 晋一 鳥取大学医学部 地域医療学

The 20th Annual Academic Conference of
the Japanese Telemedicine and Telecare Association

JTTA 2016 in YONAGO

第20回

日本遠隔医療学会学術大会

プログラム・抄録集

大会
テーマ

遠隔医療が創る、新たな医療

— 未来に向けた基盤を考える —

会期 2016年10月15日(土)・16日(日)

会場 米子コンベンションセンター

大会長 近藤 博史 鳥取大学医学部附属病院 医療情報部

副大会長 谷口 晋一 鳥取大学医学部 地域医療学

第20回 日本遠隔医療学会学術大会事務局

鳥取大学医学部附属病院 医療情報部

事務局長：寺本 圭

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1

TEL 0859-38-7128

E-mail: jtta2016@ml.med.tottori-u.ac.jp

INDEX

大会長挨拶	1
参加者へのご案内	2
交通案内	5
会場案内	6
企業展示のご案内	7
第18回医療情報学会 中国四国支部セミナー	9
レセプション(懇親会)について	10
座長一覧	11
日程表	12
プログラム	14
抄 録	
ランチョンセミナー	27
シンポジウム1	33
シンポジウム2	39
分科会1	47
分科会2	51
分科会3	55
分科会4	57
分科会5	59
分科会6	63
一般演題A	67
一般演題B	79
謝 辞	96

交通案内

■会場：米子コンベンションセンター BiG SHiP

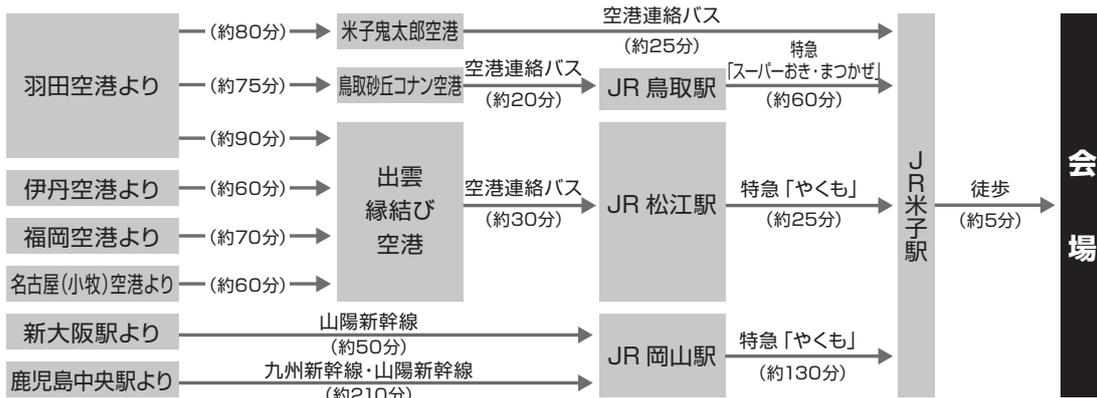
〒683-0043 鳥取県米子市末広町294 TEL：0859-35-8111 FAX：0859-39-0700

<http://www.bigship.or.jp/>

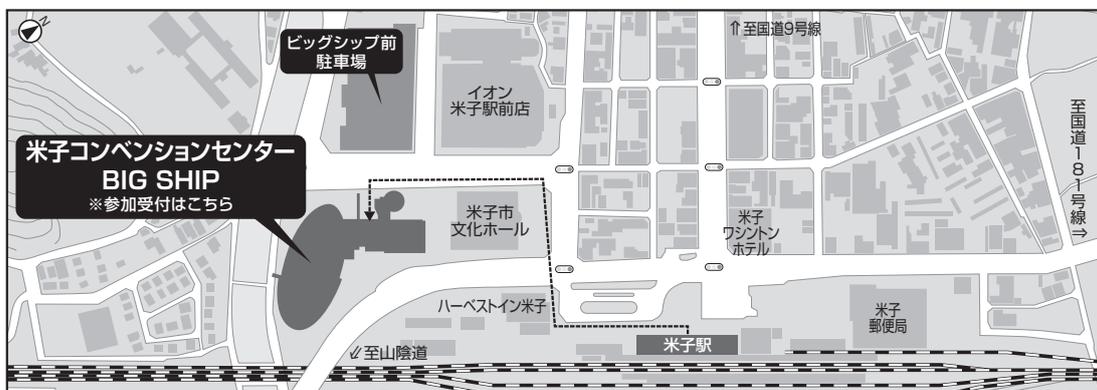
- JR米子駅から徒歩5分
- 米子空港から車で約25分
- 米子自動車道米子I.Cから車で約5分

※松江方面からお越しの場合は、米子西I.Cを下りてください。

会場までの交通案内



車を利用した場合	ルート	所要時間
大阪	—[中国道 → 米子道 → 山陰道経由]— 米子中I.C	約3時間
岡山	—[山陽道 → 岡山道 → 中国道 → 米子道 → 山陰道経由]— 米子中I.C	約2時間
広島	—[山陽道 → 岡山道 → 中国道 → 米子道 → 山陰道経由]— 米子中I.C	約2時間50分
高知	—[高松道 → 瀬戸中央道 → 岡山道 → 中国道 → 米子道 → 山陰道経由]— 米子中I.C	約3時間30分

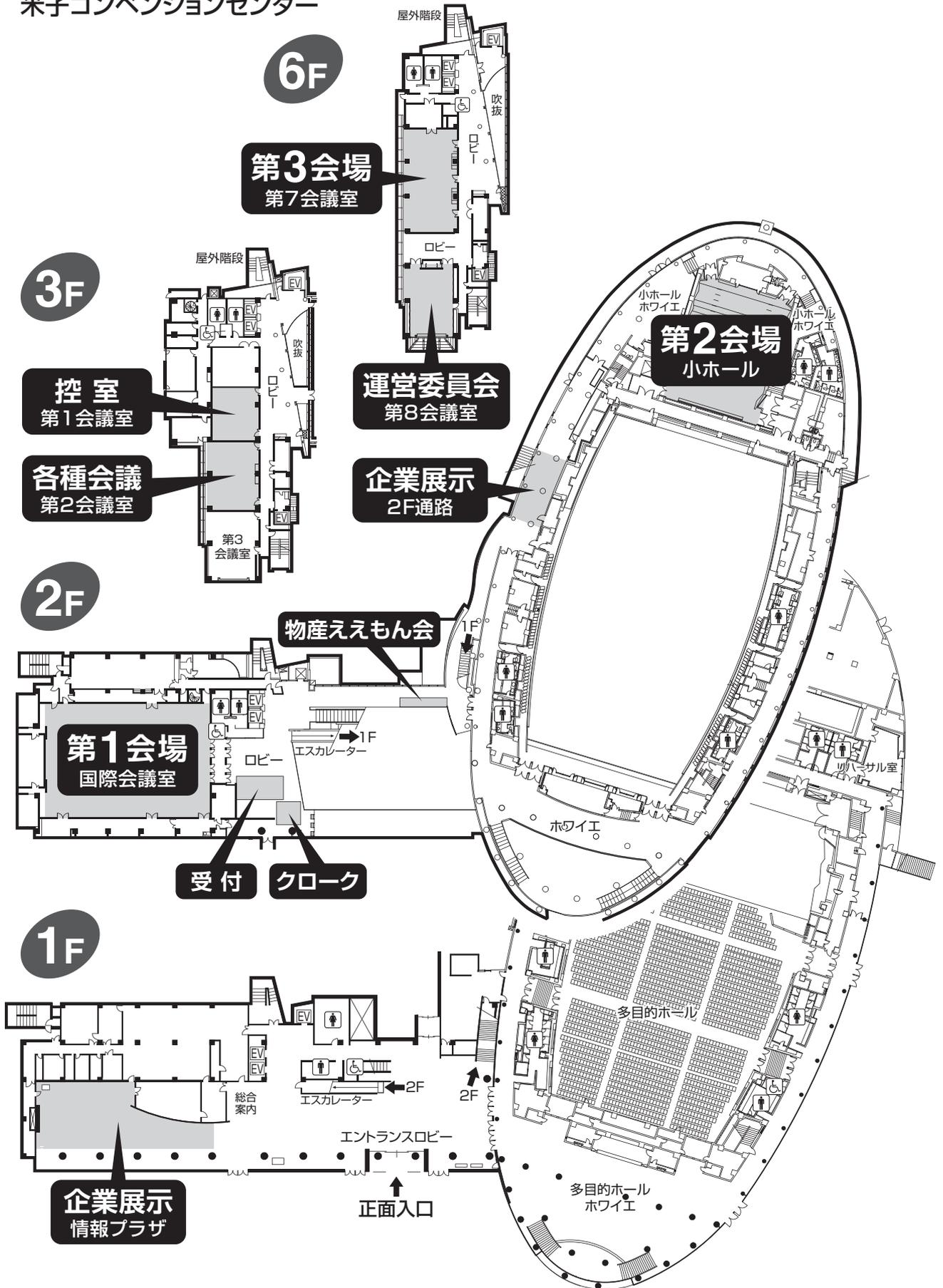


■駐車場のご案内

ビッグシップ前駐車場 (米子駅前簡易駐車場) に駐車された方は駐車券をご持参ください。
会場内に設置いたします割引認証機にお通しいただきますと、開催時間内は駐車料金が無料になります。
※その他の近隣有料駐車場の割引は適用されません。

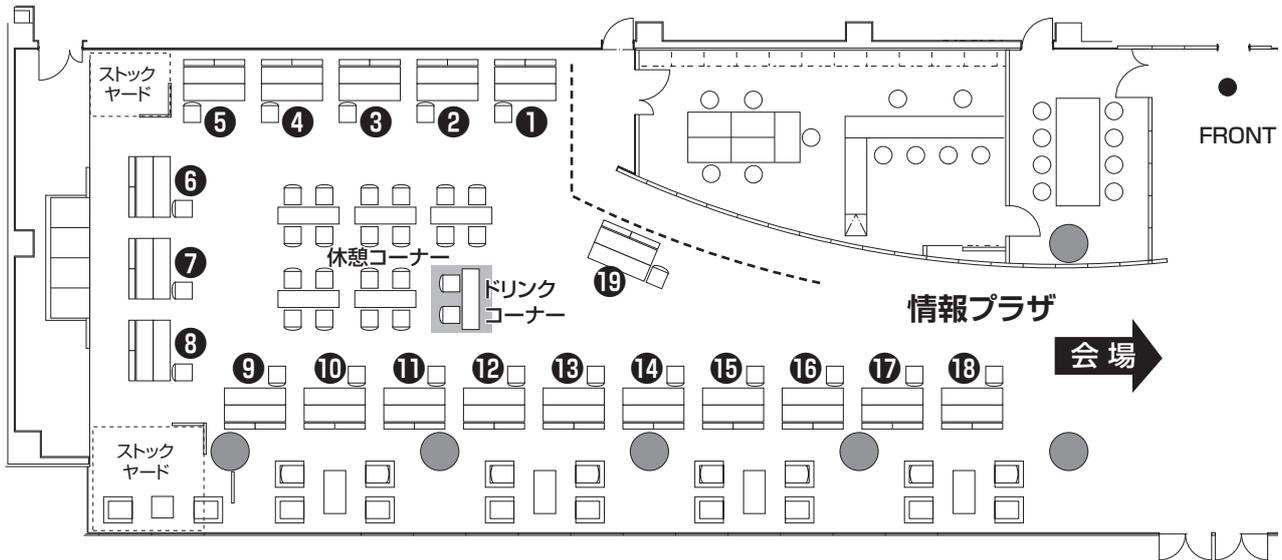
会場案内

米子コンベンションセンター



企業展示のご案内

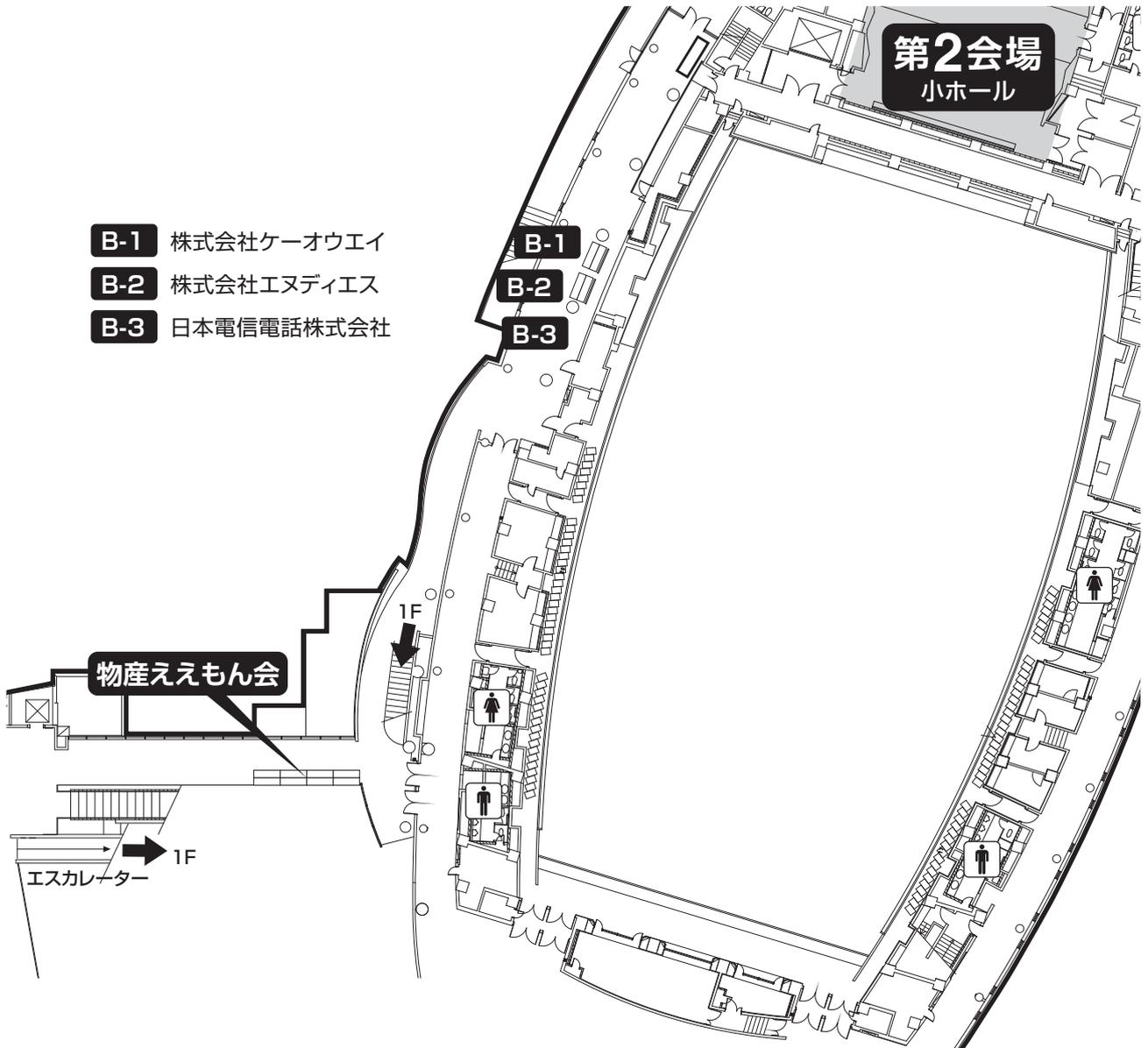
1F 情報プラザ 企業展示会場



- | | |
|-------------------|-------------------|
| ① 株式会社沖データ | ⑪ ユニテック・ジャパン株式会社 |
| ② 株式会社アストロステージ | ⑫ 株式会社JVCケンウッド |
| ③ PSP株式会社 | ⑬ 株式会社テクノプロジェクト |
| ④ 株式会社南日本情報処理センター | ⑭ ダイワボウ情報システム株式会社 |
| ⑤ リコージャパン株式会社 | ⑮ エヌ・デーソフトウェア株式会社 |
| ⑥ セコム医療システム株式会社 | ⑯ EMCジャパン株式会社 |
| ⑦ 株式会社エムアンドエイチ | ⑰ 青い森クラウドベース株式会社 |
| ⑧ NTT西日本 | ⑱ 株式会社 日立製作所 |
| ⑨ 株式会社ミントウェーブ | ⑲ 富士フイルムメディカル株式会社 |
| ⑩ MRT株式会社 | |

2F

第2会場(小ホール)通路 企業展示会場



1日目 10月15日(土)

	第1会場 2F 国際会議室	第2会場 2F 小ホール	第3会場 6F 第7会議室	企業展示会場 1F 情報プラザ 2F 第2会場通路
8:30	8:30～ 受付 2F 第1会場ロビー			
9:00	9:00～ 開会式			9:00 ～ 17:00
10:00	9:30～10:45 一般演題 A-1 座長：松本 武浩	9:30～11:00 分科会 1 在宅生体モニタリング機器 情報遠隔伝送のための ガイドライン策定分科会 座長：中村 昭則 滝沢 正臣	9:30～10:30 一般演題 B-1 座長：山田 恒夫	企 業 展 示
11:00	10:45～11:45 一般演題 A-2 座長：中島 功		10:30～11:45 一般演題 B-2 座長：坂田 信裕	
12:00	12:00～12:50 ランチョンセミナー 1 LS-1 共催：富士フィルムメディカル株式会社	12:00～12:50 ランチョンセミナー 2 LS-2 共催：株式会社エヌデー 日本アイ・ピー・エム株式会社		
13:00	13:00～15:30 シンポジウム 1 地域医療連携の現状と 課題、そして将来像 座長：松本 武浩 近藤 博史	13:00～14:30 分科会 2 周産期医療分科会 座長：小笠原 敏浩 山田 恒夫		
15:00		14:40～16:10 分科会 3 睡眠遠隔医療分科会 座長：成井 浩司	14:15～15:30 一般演題 B-3 座長：本間 聡起	
16:00	15:40～17:10 一般演題 A-3 座長：郡 隆之		15:30～16:30 一般演題 B-4 座長：長谷川 高志	
17:00				
18:00				
19:00	18:30～20:30 懇親会 会場：植田正治写真美術館			

2日目 10月16日

	第1会場 2F 国際会議室	第2会場 2F 小ホール	第3会場 6F 第7会議室	企業展示会場 1F 情報プラザ 2F 第2会場通路
8:30	8:30～ 受付 2F 第1会場ロビー			
9:00	9:00～11:40 シンポジウム 2 在宅医療、介護の連携システムの現状と課題、そして将来像 座長：谷口 晋一 近藤 博史	9:00～10:30 分科会 4 e-health研究会 座長：長谷川 高志 酒巻 哲夫	9:00～9:45 一般演題 B-5 座長：滝沢 正臣	9:00 ～ 14:00 企 業 展 示
10:00		10:30～11:30 分科会 5 在宅見守り支援分科会 座長：鈴木 亮二 鎌田 弘之	10:00～11:15 一般演題 B-6 座長：木ノ内 玲子	
11:00				
12:00	12:00～12:50 ランチョンセミナー 3 LS-3 共催：GEヘルスケア・ジャパン株式会社	12:00～12:50 ランチョンセミナー 4 LS-4 共催：セコム山陰株式会社		
13:00	13:00～14:00 一般演題 A-4 座長：辻 正次	13:00～14:00 分科会 6 精神科遠隔医療分科会 座長：岸本 泰士郎 江口 洋子		
14:00	14:00～ JTTA 報告会・表彰式・閉会式			
15:00				

プログラム

1日目 10月15日(土)

第1会場(2F 国際会議室)

開会式 9:00～

ランチョンセミナー1 12:00～12:50

共催：富士フィルムメディカル株式会社

Telestroke による Stroke Network 構築

石原 秀行(国立大学法人 山口大学 脳神経外科 講師)

シンポジウム1 13:00～15:30

座長：松本 武浩(長崎大学病院 医療情報部 副部長)

近藤 博史(鳥取大学医学部附属病院 医療情報部)

「地域医療連携の現状と課題、そして将来像」

SY1-1 おしどりネットの現状と将来

○近藤 博史

鳥取大学医学部附属病院 医療情報部

SY1-2 まめネットの現状と医療情報連携の広がり

○小阪 真二、秦 正、児玉 和夫、堀江 卓史、杉浦 明

NPO しまね医療情報ネットワーク協会

SY1-3 『晴れやかネット』の現状と課題

○合地 明

医療ネットワーク岡山協議会 理事、井原市立井原市民病院 院長

SY1-4 医療連携システムの価値と課題と将来

～あじさいネット12年の運用でわかってきたこと～

○松本 武浩

長崎大学病院 医療情報部 副部長

SY1-5 医療連携強化を目指した厚生労働省の取り組み

○岡田 就将

厚生労働省大臣官房厚生科学課 医療イノベーション推進官、
(併)医政局医療技術情報推進室長

クラウド型電子カルテが担う遠隔診療の基盤づくり

高木 翼(セコム医療システム株式会社)

分科会6 13:00～14:00

座長：岸本 泰士郎(慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室)

江口 洋子(慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室)

「精神科遠隔医療分科会」

S6-1 テレビ会議システムを用いて行う認知機能検査 高齢者における有用性と今後の展望

○飯干 紀代子

志學館大学 人間関係学部 心理臨床学科

S6-2 遠隔精神科医療の法政策 ～着実な社会実装に向けて～

○藤田 卓仙

名古屋大学 経済学研究科

S6-3 遠隔医療の政策動向について

○吉村 健佑

厚生労働省 医政局 研究開発振興課 医療技術情報推進室

一般演題 プログラム

一般演題 A-1 10月15日(土) 9:30~10:45

第1会場(2F 国際会議室)

座長: 松本 武浩(長崎大学病院 医療情報部)

A-1-1 ラジオ難聴地域でも運用可能なインターネット防災ラジオシステムの開発

A development of a disaster prevention radio broadcasting system using the internet

松本 浩樹¹⁾、岡崎 浩幸¹⁾、○江面 直輝¹⁾、政田 朴之²⁾

1)前橋工科大学、2)㈱ナカヨ

A-1-2 熊本地震急性期における ICT の利活用

The utilization of information and communication technology in the acute phase of Kumamoto earthquake

○島谷 竜俊

広島大学大学院 救急集中治療医学

A-1-3 地域医療教育における電子ポートフォリオの有効性

The Efficacy of Electronic Portfolio in Community-based Medical Education

○井上 和興、朴 大昊、松澤 和彦、浜田 紀宏、谷口 晋一

鳥取大学医学部 地域医療学講座

A-1-4 ICT を用いた他施設医師による専門診療支援事例報告

Case report of professional medical supported by a doctor from another hospital using ICT

○嗣江 建栄

ViewSend ICT

A-1-5 テレビ会議システムを使った胎児心エコーの遠隔ハンズオン

Tele-hands of for fetal cardiac ultrasound with Vidyo system

○川瀧 元良¹⁾¹⁰⁾、村上 俊雄²⁾、野田 俊一³⁾、窪谷 潔⁴⁾、林 弥生⁵⁾、阿部 洋一⁶⁾、
庄司 潔⁷⁾、森永 康文⁸⁾、長澤 智子⁹⁾、鈴木 久弥¹⁰⁾、橋本 哲司¹¹⁾

1)東北大学 産婦人科、2)医療法人 佐世保晩翠会 村上病院、3)野田産婦人科医院、4)窪谷産婦人科医院、
5)林メディカルクリニック、6)あべクリニック産科婦人科医院、7)庄司産婦人科医院、8)森永産婦人科医院、
9)三井病院、10)仙台赤十字病院 産婦人科、11)青森市民病院 産婦人科

一般演題 A-2 10月15日(土) 10:45~11:45

第1会場(2F 国際会議室)

座長: 中島 功(東海大学医学部)

A-2-1 複数の鳥に装着する2.4GHz 帯送受信モジュール間の相互通信性能に関する実験的評価

Experimental Evaluation of Mutual Communication Performance Among Several 2.4GHz Band Transceivers for Wild Birds

○北野 利彦、中田 薫、猪口 貞樹、中島 功

東海大学 医学部

A-2-2 潜因性脳梗塞患者の塞栓源検索における前胸部貼付型テレメトリー式心電送信機 duranta[®] の有用性

Utility of Duranta[®], a wireless patch-type electrocardiographic monitoring system placed at a precordial position, in detecting the embolic source in patients with cryptogenic stroke

○秋山 久尚、貫井 咲希、荒賀 崇、星野 俊、田中 啓太、鹿島 悟、佐々木 梨衣、
内野 賢治、長谷川 泰弘

聖マリアンナ医科大学 神経内科

B-3-3 非皮膚科向け皮膚疾患診療・治療補助サービスヒフミル君に対する意識調査の結果とその考察

○竹村 昌敏¹⁾²⁾、物部 真一郎²⁾³⁾

1)東京医科歯科大学 整形外科、2)exMedio、3)東員病院 精神科

B-3-4 脳卒中遠隔医療のための教育ツール

○伊佐早 健司¹⁾、加藤 貴之²⁾、鶴岡 淳²⁾、清水 眞²⁾、秋山 久尚¹⁾、長谷川 泰弘¹⁾

1)聖マリアンナ医科 神経内科、2)裾野赤十字病院 内科

B-3-5 遠隔医療教育のための全ユーザーが再生操作・指示可能な動画共有ツールの提案

○北村 泰一¹⁾、工藤 孔梨子¹⁾、安徳 恭影²⁾、中島 直樹¹⁾、須山 佳典³⁾、清水 周次¹⁾

1)九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター、2)九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター、3)ユニゾンシステムズ

一般演題 B-4 10月15日(日) 15:30～16:30

第3会場(6F 第7会議室)

座長：長谷川 高志(群馬大学医学部附属病院)

B-4-1 遠隔診療が医療に寄与する役割のフレームワークに関する諸外国のガイドライン等から見た一考察

○佐藤 大介¹⁾、渡邊 亮²⁾、落合 孝文³⁾、田村 桂一⁴⁾、園田 愛⁵⁾、塩澤 耕平⁵⁾、乗竹 亮治⁶⁾

1)東京大学医学部附属病院 企画情報運営部、2)東京医科大学 総合情報部、3)渥美坂井法律事務所・外国法共同事業、4)TTS 法律会計事務所、5)株式会社インテグリティ・ヘルスケア、6)日本医療政策機構

B-4-2 遠隔医療分野で予想される法的問題点

○伊藤 寛之¹⁾²⁾、青木 聡史¹⁾²⁾、鈴木 孝昭¹⁾²⁾

1)弁護士法人ユニエンス、2)ユニエンス株式会社

B-4-3 遠隔診療を容易に実施できるソリューションによる、遠隔診療の普及の現状

○島 佑介

株式会社メドレー

B-4-4 遠隔診療の実施に関連した法的論点への回答事例

○田丸 雄太

株式会社メドレー

一般演題 B-5 10月16日(月) 9:00～9:45

第3会場(6F 第7会議室)

座長：滝沢 正臣(信州大学医学部附属病院)

B-5-1 インターネットを利用した減塩行動支援方策は、高血圧を有する就労層の減塩に有効である

○萩原 悠太¹⁾²⁾、足立 拓史³⁾、神谷 訓康³⁾、清水 優子¹⁾²⁾、今井 俊博⁴⁾、前里 ゆかり⁴⁾、山田 純生²⁾

1)NPO 法人 脳梗塞・心筋梗塞再発予防センター、2)名古屋大学大学院医学系研究科(保健学)、3)名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻博士課程、4)エプソン健康保険組合

B-5-2 最新の画像処理技術を応用した遠隔医療システムの開発

○松本 桂太郎¹⁾、畑地 豪¹⁾、高木 克典²⁾、山崎 直哉¹⁾、松尾 直門¹⁾、八坂 貴宏³⁾、濱田 正久⁴⁾、永安 武¹⁾

1)長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 腫瘍外科、2)東京大学 形成外科、3)長崎県上五島病院、4)株式会社クリプトン

B-5-3 禁煙外来受診継続、禁煙達成における遠隔診療の効果の検討

○来田 誠

新六本木クリニック

一般演題 B-6 10月16日回 10:00～11:15

第3会場(6F 第7会議室)

座長：木ノ内 玲子(旭川医科大学医学部 医工連携総研講座)

B-6-1 「ウェルネットリンク」を利用した眼底健診と緑内障に関連する因子の検討

○木ノ内 玲子¹⁾、石子 智士¹⁾、花田 一臣¹⁾、林 弘樹¹⁾、三上 大季¹⁾、守屋 潔¹⁾²⁾、吉田 晃敏²⁾

1)旭川医科大学医学部 医工連携総研講座、2)旭川医科大学

B-6-2 地域医療 ICT ネットワーク「あじさいネット」における診療所で実施した検査データ共有の取組み

○臼井 哲也¹⁾、松本 武浩²⁾³⁾、宇野 直輝³⁾、南 惣一郎¹⁾、賀来 敬仁³⁾、柳原 克紀³⁾

1)長崎大学病院 検査部、2)長崎大学病院 医療情報部、3)長崎大学医歯薬学総合研究科

B-6-3 地域における心原性脳塞栓症発症予防のための新しい取り組みについて

○久保山 修、萱橋 理宏

つくばハートクリニック

B-6-4 遠隔診断支援システムを用いた超音波胎児診断支援の経験

○羽場 巖¹⁾、畑山 伸弥³⁾、金杉 知宜¹⁾、松本 敦²⁾、岩動 ちず子¹⁾、小山 理恵¹⁾、小笠原 敏浩³⁾、菊池 昭彦¹⁾、小山 耕太郎²⁾、杉山 徹¹⁾

1)岩手医科大学 産婦人科、2)岩手医科大学 小児科、3)岩手県立大船渡病院

B-6-5 歯科領域における保険請求を前提とした遠隔画像診断サービスについて

○江島 堅一郎、澤田 久仁彦、荒木 正夫、橋本 光二、新井 嘉則、本田 和也

日本大学歯学部 歯科放射線学講座

ランチョンセミナー

シンポジウム 1

「地域医療連携の現状と課題、そして将来像」

「地域医療連携」は医療再生基金により、国内に広がり、多くの医療機関がつながりました。

幾つかの効果は実証され、保険点数も認めていただけるようになってきましたが、存続に苦勞しているところもあります。

反面、機能の追加、利用の拡大、県境を越えての接続など次のステップへの移行しているところもあります。

今回は全国的にも有名な長崎県のあじさいネット、島根県のまめネット、岡山県の晴れやかネット、と鳥取県のおしどりネットの関係者の皆様に繋いでわかった現状と課題、そして将来像を、厚生労働省からは国のお考えと今後の方向性についてお話し願ひ、最後に参加されている皆様と討論の場を持ちたいと思います。



座長

松本 武浩

長崎大学病院 医療情報部
副部長



座長

近藤 博史

鳥取大学医学部附属病院
医療情報部

分科会 1

在宅生体モニタリング機器情報遠隔伝送のための ガイドライン策定分科会

分科会長：中村 昭則 (NHO まつもと医療センター／信州大学医学部附属病院)

遠隔医療の重要なコンポーネントとなる在宅生体情報の医療施設などへの外部伝送に関しては、その共有化を推進するために必要なガイドラインが国際的にも作成されていません。特に生命維持装置である人工呼吸器の異常などで発生するアラーム音響は室内の家族以外には知ることができず、外部からの緊急支援が出来ない危険な状態であるにも関わらず、これを在宅で利用する患者が急増しています。これに伴い、不幸な転帰を伴う事故もまた、急速に増加しつつあります。

このことから、発生したアラーム情報等の外部配信を主目的とした生体情報の伝送についての共有ガイドラインを策定し、機器メーカーがこれに従った在宅モニタリング機器を開発することで、メーカーや機種に依存せずに医療施設などへのアラーム配信を行い、結果的に救命率の向上に寄与することが急務と考えます。

信州大学病院グループは、これまで5年以上にわたり在宅用生体遠隔モニタリング機器開発に関わり実証実験などを積み重ねてきました。2014年、日本医療研究開発機構 (AMED、先端的基盤開発研究事業) を受け「在宅人工呼吸器の遠隔監視システムの開発」に着手しましたが、この報告は第19回日本遠隔医療学会 (2015.10、渡辺みか大会長、仙台市) 優秀論文賞受賞につながりました。

2016年 AMED の継続支援を受け、ガイドライン案に沿った出力を持つ人工呼吸器 (Phase II) の開発を進めています。

以上のことから、遠隔医療に直接的なかわりを持つ日本遠隔医療学会内に「在宅生体モニタリング機器情報遠隔伝送のためのガイドライン (略称ガイドライン)」分科会を設立し、メーカーや機種に依存しない生体情報の外部伝送の実現などの課題解決にあたる構想が2015年承認されました。

この活動を一層推進するため、本年2月の Spring Conference 2016分科会に続き、YONAGO 2016でのシンポジウムを企画しました。大会での意見をベースとしてガイドライン案策定を一層進め、有識者、関係医療機器製造企業と工業会、行政で構成される拡大検討会につなぐことで、国際的なガイドライン策定を目指したいと考えます。

座 長：中村 昭則 (NHO まつもと医療センター)
滝沢 正臣 (信州大学医学部附属病院)

指定発言：鎮西 清行 (産業総合研究所)
「医療機器開発ガイドライン策定から国際規格へ」

分科会 4

e-health 研究会

分科会長：長谷川 高志（群馬大学医学部附属病院）

遠隔医療推進に関する厚生労働行政推進調査事業（厚生労働科学研究）、および厚生労働省事業遠隔医療従事者研修について報告する。

厚生労働省によるは遠隔医療推進の取り組みの二つに参加して、知見を蓄積してきた。その一つが厚生労働行政推進調査事業（研究代表者 酒巻哲夫）による遠隔診療のエビデンス収集を計画している。その臨床研究計画概要や遠隔診療施設立ち上げ支援策などを報告する。厚生労働省事業遠隔医療従事者研修について、今年3回目を実施すべく準備中である。研修事業のこれまでの経過、研修コースのカリキュラムとしての考え方などを報告する。これらに加えて、臨床研究参加の準備施設、研修事業参加施設、これまでの調査研究対象施設の取り組みの紹介も併せて行い、先進事例や遠隔医療の実態の情報を広く共有する。

座長：長谷川 高志（群馬大学医学部附属病院）

酒巻 哲夫（高崎市医師会看護専門学校）

分科会5

在宅見守り支援分科会

分科会長：鈴木 亮二（群馬大学医学部附属病院 システム統合センター）

NPO 法人日本遠隔医療協会は、在宅見守り支援分科会メンバーを中心に、「重層的見守りの構築のための先導的研究」（研究責任者：鎌田弘之）を、平成27年4月から平成28年9月まで岩手県釜石市平田地区をフィールドとして研究プロジェクトを実施した。本研究は、「電話を活用した能動的安否確認（おげんき発信）」、「在宅血圧管理（ぼちっとらいふ）」、「服薬支援（見守り機能付き服薬支援装置ふっくん）」、「買い物支援（ヤマト運輸まごころ宅急便）」の複数サービスを高齢者に提供し、特別養護老人ホームあいぜんの里に設置した見守りセンターが、ポータルサイトを用いてデータを一元的に閲覧して見守りを行い、「重層的見守り」に関する効果と課題を検討することを目的とする。本分科会は、研究プロジェクトの成果を4演題で発表する。本研究は、クアルコム「Wireless Reach イニシアチブ」の助成を受けて行った。

座長：鈴木 亮二（群馬大学医学部附属病院 システム統合センター）

鎌田 弘之（盛岡赤十字病院）

一般演題 A

第20回日本遠隔医療学会学術大会
プログラム・抄録集

大会長：近藤 博史

事務局：鳥取大学医学部附属病院 医療情報部
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL：0859-38-7128 FAX：0859-38-6890
E-mail：jtta2016@ml.med.tottori-u.ac.jp

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<http://www.secand.jp/>